

冬の使者「オオハクチョウ」

純白なハクチョウの到来は、私たちに冬のおとずれを知らせるかのようです。

ハクチョウといえば、公園の池などで見かけるものを思い浮かべる人が多いと思いますが、これは、くちばしの付け根にこぶのあるコブハクチョウで、ヨーロッパで古くから人間が飼い慣した種類です。冬鳥として日本にやってくるハクチョウは、体重12kg、羽を広げると2mにもなるオオハクチョウと、それよりやや小型のコハクチョウです。コハクチョウは、図のようにくちばしの黄色の部分がオオハクチョウよりも少ないのが特徴です。また、オオハクチョウに比べ数も少なく、オオハクチョウの群れにまじってやってきます。

ハクチョウは、10月下旬から11月上旬にかけ、大きな群れで北海道に飛来し、その後本州にも渡ってきます。北海道のふらんこ風蓮湖、青森県おのみほ大湊湾、宮城県いずぬま伊豆沼、新潟県ふろうこ瓢湖などが飛来地として有名です。

富山県にも数は多くありませんが、オオハクチョウが毎年やってきます。コハクチョウの方は時々やってくる程度です。昨年の第一陣はコハクチョウで、11月2日に6羽が砺波市の庄川で羽を休めていきました。

オオハクチョウが毎年定期



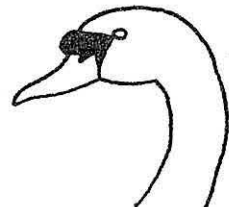
黄色

オオハクチョウ



黄色

コハクチョウ



コブハクチョウ

的に来て越冬する池としては、富山市山本の田尻池が知られています。昭和46年から毎年10羽程がきています。昨年は12月3日に5羽がやってきて、その後9羽が加わりました。昭和39年から46年にかけては富山市柄谷の大沢池に、多い時は34羽もやってきていましたが46年には塲整備のためうめられてしまいました。

田尻池にやってきた最初の頃は、池のすみにかたまり、車や人間が通ったり、上空を飛行機が飛んだりすると、首をピンとのぼし警戒しましたが、慣れてくるとのんびり泳ぐようになりました。白いオオハクチョウにまじって灰色の子供のハクチョウも見られます。水中に首をつっ込み浅瀬にはえる水草の葉や茎を食べています。一冬を田尻池で過したオオハクチョウたちは、3月には北の空へ飛び立っていきます。(H.N.)

◀ オオハクチョウのおもな記録 ▶

1960年	黒部市黒部川河口
"	富山市和合町
1961	新湊市放生津湯
1964	富山市柄谷大沢池
1971	城端町らヶ村溜池
1965	小杉町黒河女池
1970	氷見市仏島付近
1972	高岡市高田島地内小矢部川
1974	小杉町勅使が池
"	高岡市佐賀野地内小矢部川
1975	婦中町友坂池
"	富山市針原中町
1979	富山市中島地内神通川
1980	入善町上飯野地内黒部川
1971	富山市山本田尻池
1982	

◀ コハクチョウのおもな記録 ▶

1975年	富山市中島地内神通川
"	新湊市足洗湯
1981	富山市中島地内神通川
"	砺波市安川庄川

〈おもに富山県の鳥獣(1980)による〉



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)